

クラス	Q301	担当教員	奥村 哲朗
テーマ	パーソンセンタード・アプローチとインタビュー研究を通して人と出会う		
著書・論文 研究課題等	<p>【著書】「クリニック・単科精神科病院」『心の専門家養成講座第8巻産業心理臨床実践個人と職場・組織を支援する』金井篤子編著 ナカニシヤ出版 2016</p> <p>【論文】「がん治療と仕事の両立における心理的プロセスの検討」心理臨床学研究, 43(2), 2025/ 『コミュニケーション心理学』科目における体験学習の実践報告』愛知文教大学比較文化研究, 18, 2025 他</p> <p>【研究課題】がん治療と仕事の両立、若年性がん経験者の就職困難</p>		
ゼミナール概要			
キーワード：パーソンセンタード・アプローチ、働く人のメンタルヘルス、質的研究			
<p>目的</p> <p>本ゼミでは、人と人が理解し合うとはどういうことか、人のところが癒される・成長するとはどういうことか等に関して、臨床心理学の中でも主にパーソンセンタード・アプローチの視点から、知識の習得だけではなく体験的に学ぶことを目的とします。また、質的研究の方法を習得していくことを通して、さまざまな生きづらさや困難を持つ人への理解を深め、第三者に伝えられる言葉にしていく（＝論文を書く）能力を身につけていくことを目的とします。</p> <p>授業計画</p> <p>3年次前期は、フォーカシングなどの心理療法の体験、関連文献の講読とディスカッション、テーマを決めて1名に対してインタビュー調査を行うこと等を通じて、自己理解を深め、また相手の語りをもどのように理解してまとめるのかを学んでいきます。後期には、自らの問題意識を具体化していく中で、卒業研究のテーマを決め、各自関連する論文を収集、要約し、プレゼンを行います。4年次には、各自が卒業論文の調査・分析、執筆に取り組んでいきます。</p> <p>（※担当教員の専門は質的研究ですが、卒業研究では質的研究に限らず、各自が興味関心を持ったテーマを追求し、主体的に取り組むことをサポートします。）</p>			
担当教員からのメッセージ			
<p>担当教員は、主に産業・医療領域にて、個人心理療法、心理アセスメント、企業へのコンサルテーションや教育研修などを行ってきました。個人心理療法の中では、クライアントやカウンセラー自身の、言葉にならない様々な思い（フォーカシングではフェルトセンスと言います）に気づいていくことが、こころのプロセスが動き出すために重要であると感じています。一方で、多職種との連携や、教育研修などにおいては、相手に合わせた伝わりやすい表現（言葉・映像・身ぶり等）を行えるように、こころを砕いていくことが重要と感じています。</p> <p>上記の能力は、心理師を目指す方にとっても、就職して社会人になっていく方にとっても大切な能力ではないかと思います。ただ、この能力は一人では身につけることができません。安心できる環境の中で（ここがとても重要です）、お互いが意見や気持ちを表明し、互いに理解して受け止めることで、深い議論や気づきが生まれてきます。このようなプロセスに興味を持ってくれた方、もしくは苦手だなどと思っても、チャレンジしたい気持ちのある方を歓迎します。</p> <p>また、担当教員の現在の研究テーマは「がん治療と仕事の両立」ですが、このテーマを臨床心理学的視点から研究している人はほとんどいません。質的研究は仮説の発想や仮説探索型の研究に向いているといわれています。今まであまり注目されてこなかった、生きづらさや葛藤を抱えている人たちに興味のある方は、ぜひ一緒に探求できればと思います。</p> <p>ただし、インタビュー研究は、取り掛かりは簡単そうに（！？）思えるかもしれませんが、安易な研究計画でインタビューを始めてしまうと、どのようにまとめたら良いのか途方に暮れてしまいます。質的研究の先行研究を継続的に読む、また「質的データの解析」を受講し、面接法だけでなく、観察法や文書データの解析など、心理学的研究法を広く学んでいくことを望みます。</p>			